

がんちゃんのIPE通信

IPE (Intellectual Property Education)

葛巻 現地で得た情報 —「知財ワークショップ」の準備—

2006年5月11日、私は大学教育センターの福永先生とともに葛巻町に向かった。当日の主な課題は、現地の概要を知り、「知財ワークショップ」学習課題の基本の枠組みを確認することであった。以下に、現地で得た情報の一部を紹介する。

【葛巻町の概要】

葛巻は「ミルクとワインとクリーンエネルギー」の町である。ミルクづくり、ワインづくり、エネルギーづくりの環境に負荷をかけない手法を編み出している。さらに次世代の環境に負荷をかけない生活を教育実践する組織「森と風の学校」も生まれている。

【環境に負荷をかけない町づくりの展開】

全国最大の公営牧場で乳牛の委託飼育を行っている（子牛を預かり、成牛に育て、妊娠させて農家に返す）。牛乳ばかりか、バター・チーズをつくり、特産品として販売している（差別化した商品を作り、商標を定め、販路を確立する）。

牛舎飼の牛200頭が、低温殺菌牛乳用の乳を搾っている。同時に牛の糞尿からメタン発酵して生産されたバイオガスを回収、濃縮して、熱と電気を同時に発生させるシステム「バイオガス高度利用コジュネシステム」を動かしている。

池田町（北海道）や月山ワインをモデルに、国立市の農業科学研究所で技術研修を行い、豊富に自生していた山葡萄を品種改良栽培し、これを原料に赤・ロゼワインを醸造。その後、玉山村のぶどう栽培農家から白ワインの原料ぶどう（セーベル系ワイン専用種）を入手して、白ワインも醸造している。

将来的には発電とともに温水も供給することを目標として、間伐材を利用した「木質バイオマスによるガス化」による発電を行っている。

袖山高原と上外川高原に風車を設置し、町は固定資産税を電力会社から徴収している。予想年間発電量は袖山が302万KWh（一般家庭900軒分）、上外川地区が5400万KWh（一般家庭16000軒分）である。

葛巻中学校庭に太陽光発電を設置している。葛巻は食料の自給率200%であるが、電気エネルギーでも300%を超える町である。そして、電気エネルギーの生産は課役燃料を用いない、循環型を基本としている。

【環境に負荷をかけない生活スタイルの学校】

ボランティアで参加している2名のスタッフ（岩手大学卒業生）の指導のもとで、環境に負荷をかけない様々な生活スタイルを実践している。たとえば、スローツアー、食の寺子屋、子ども自然エネルギーキャンプ、子どもオープンディエコツアー・スローツアー、食と鶏舎づくり、バイオガス・コンポスト、排水浄化、太陽光・風力発電……。いずれも生活の中から、地域の中から、学習主題を組み立てている。

環境面での見所盛り沢山の葛巻、どうやら「知財ワークショップ」はおもしろくなりそうだ。

（文：大学教育総合センター教授 山崎憲治）

知財ワークショップは、知財教育プログラムの一環として、今年度より新たに始まる授業です。受講生は、事前説明を受けたのち、3つのグループに分かれて遠野・葛巻・松尾の現地調査に赴き、環境と知財との関連について探求します。

現代GP活動予定

8月6日～9日

知財ワークショップ

6日 事前説明会

7日 遠野・葛巻・松尾現地調査

8日 ディスカッション

9日 プレゼンテーション

9月6日～8日、11日、12日

「特許法特講」開講

9月25日、26日

特許庁・東芝知財部などの現場

見学研修（第2回）

現代GP活動記録

7月19日

特別講義「知的財産権とは何か？その教育効果は？」

16:30～18:00

（教育学部1号館117室）

講師：富沢知成 弁理士

岩手大学知的財産教育実行委員会

〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18番34号

知財教育推進部事務局

電話 019(621)6749

FAX 019(621)6749

Email: chizai@iwate-u.ac.jp

ホームページもご覧ください。
<http://chizai.iwate-u.ac.jp>

岩手の“大地”と“人”とともに

実録 商標登録に挑戦！ 第4回 商標って何だ？

私たちスタッフは、この「アイ・アシスタント」の開発にあたり、最終的に「売りものにしたい」という思いがあります。他の大学が「お金を出してでも使いたい」と思わせるようなものをつくりたいと（良いものと売れるものとはまた別なんです）。そこで、商品化を視野に入れ、ちょうどこの現代GPのこともあり、「商標登録しよう」と思いつきました。しかし、多くの大学の教員がそうであるように、私たちも商標に関する知識はほとんどありません。「なら、まず専門家に！」ということで、地域連携推進センターに相談を持ちかけてみました。

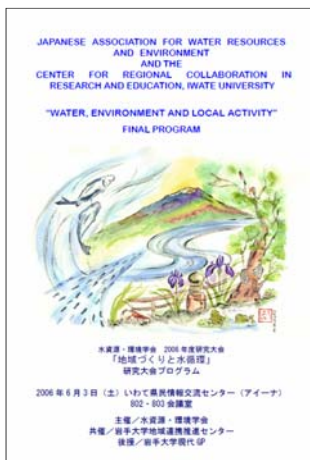
地域連携推進センターの技術移転マネージャーさんたちは、このような教員の「困った」の相談によってくれる専門家です。全く知識のない私たちに、色々な資料を用意して「商標」の考え方や「登録」までの手続きを丁寧に説明してくださいました。単純な私は、「自分でやってみようかしらん？」と思ったぐらいです。ただし、今回は「確実に登録」を第一に、まずは、弁理士事務所に調査をお願いすることにしました。

ちなみに、私が最初に一押しした「アシスタント・アイ」は、しっかり商標登録されてました。もし、「アシスタント・アイ」と名付けていたら、「やりなおし」（名前の変更が必要）だったでしょう。知らないうちに他人の権利を「権利侵害」してしまうところでした。専門外であろうとも、大学の教員も多少の知的財産権に関する知識は必要ですね。

※以下のページにある「商標出願・登録情報」をクリックすると商標検索ができます。
<http://www.ipdl.ncipi.go.jp/Syouhyou/syouhyou.htm>

(文：大学教育総合センター講師 江本理恵)

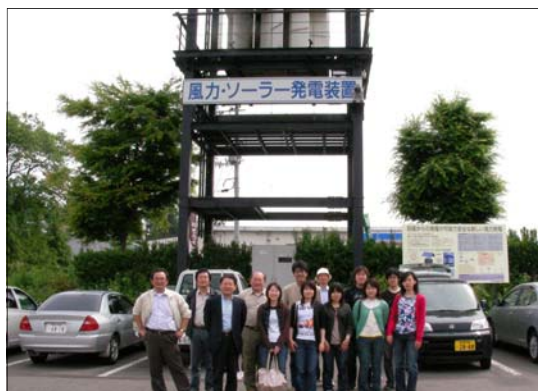
→ 研究大会プログラム



「地域づくりと水環境」研究大会報告

初夏の涼風と晴天に恵まれた、2006年6月3日(土)、岩手県民情報交流センター(アイーナ)で、「地域づくりと水循環」研究大会が開催された。本研究大会は、水資源・環境学会の研究企画委員会主催、岩手大学地域連携推進センター共催、岩手大学現代GP後援で開催が実現した。午前中は2会場で「環境再生と地域づくり」と「環境教育と地域づくり」のテーマで研究発表のセッションが同時進行し、午後は大会場で「地域づくりと水循環」のテーマのもと研究発表と総合討論の2つのセッションが開かれた。岩手大学からも、平山学長に「地域づくりと水循環」の基調

講演を頂き、玉副学長に「環境教育と地域づくり」の座長を務めていただくなど、多数の先生方にご参加いただいた。発表者の総数17名、総合討論でのパネリストが4名、参加者は午前中70名、午後50名ほどで延べ120名になった。また関連の行事として、翌6月4日(日)には、八幡平市の旧松尾鉱山や花巻市の酒蔵を見学するバス・ツアーが行われ、26名が参加した。本研究大会の様子は岩手日報にも紹介記事が掲載されることとなり、すべてのプログラムが盛況のうちに予定通り終了した。



バス・ツアー参加者の写真

(文：人文社会科学部教授 松岡勝実)